

## メガバンクグループの格付見直し結果

JCRは、国内メガバンクグループ（三菱UFJフィナンシャル・グループ、みずほフィナンシャルグループ、SMBCグループ）の銀行持株会社と中核会社の格付を見直しました。今回の見直しにおける格付の視点は以下の通りです。個社の格付事由については、本日付のニュースリリース（23-D-0944、23-D-0945、23-D-0946）を参照ください。

### ■格付の視点

- (1) JCRは、メガバンクグループの銀行持株会社の発行体格付について、持株会社が有する構造劣後性を反映させる必要性が低下したと判断し、1ノッチ引き上げてグループ信用力と同等とした。中核会社の発行体格付については、いずれも据え置きとした。格付の見直しは「安定的」である。グループの総合力や健全な資産内容を背景に一定の最終利益が安定的に確保されるとみられること、規律ある資本政策の下で現状程度の資本水準が維持される見直しであることなどがグループ信用力を支えている。
- (2) メガバンクグループの銀行持株会社の発行体格付については、これまで持株会社が有する構造劣後性を反映させグループ信用力の1ノッチ下としてきた。背景には、JCRが構造劣後性の度合いを判断する際に重視するダブルレバレッジ比率につき、過去には比較的高い水準で推移してきたこと、大型M&Aなどによって高まる可能性を考慮していたことがある。しかし、ダブルレバレッジ比率は中期的に一定水準を下回って推移している上、各グループの財務運営方針を踏まえると今後も大幅に上昇する可能性は低いとJCRは考えている。このため、構造劣後性を理由とするノッチダウンは不要と判断した。メガバンクグループではSPE（Single Point of Entry）方式による破綻処理が「望ましい処理戦略」とされており、このことは持株会社の債権者が傘下銀行などの債権者に先立って損失を被る可能性を高める要因となりうる。しかし、従前よりJCRでは、グループ信用力が「A」相当以上の場合には、破綻処理にかかるリスクのみを理由に持株会社の発行体格付をノッチダウンしないこととしている。
- (3) 多様で厚みのある事業基盤と経営資源を有していることがメガバンクグループの信用力を支える要素の1つとなっている。銀行、信託、証券、リースといった各分野でプレゼンスの高いエンティティを擁し、大・中堅企業の多様な金融・非金融のニーズを多面的に捕捉している。特に銀行、証券などの連携によって日系・非日系大企業に対して資金調達などのソリューションを提供するグローバルCIB（Corporate and Investment Banking）事業を展開できるネットワークと顧客基盤、人材・ノウハウを有していることは、他の邦銀グループにはない強みである。各グループとも市場規模の大きな米国の資本市場や、成長余地の大きいアジアにおける戦略・施策に取り組んでおり、事業基盤は一段と強化される方向にある。国内外のインフレ進行や地政学リスクの高まりなどの環境変化がみられる中、市場関連業務や海外事業の比重が増大することは、収益の変動性を高める要素ともなりうるが、現状の各グループの事業ポートフォリオなどを踏まえると、収益源の多様化および成長余地の拡大といったポジティブな要素の方が強いとJCRは考えている。
- (4) ここ数年の収益は堅調な推移をみせており、各グループの実質業務純益はマイナス金利政策の導入前の水準をおおむね回復している。23/3期は海外長期金利の急上昇を受けた外国証券にかかる損失などに伴い市場部門収益は悪化したものの、外貨を中心とする貸出利ざやの改善や非金利収益の増加など顧客部門が伸長し、収益面での耐性の強さを示した。超低金利環境下で資金収益に対する下押し圧力が続いてきたが、国内の金利環境は転換点を迎えており、資金関連業務の収益環境は好転しつつあるとJCRはみている。
- (5) 資産の質は健全な状態が維持されている。中核銀行における金融再生法開示債権比率は1%内外と低位にあり、与信費用は予防的な引当による押し上げがあったうえでも利益を圧迫するには至っていない。メガバン

くの主要顧客である国内の大・中堅企業では、長期にわたって有利子負債の圧縮・抑制と資本の積み上げが進み、財務面でのストレス耐性は大きく高まっている。海外向け貸出についても、基本的に慎重な与信スタンスをとっており、高格付先が多いことから資産劣化は限定的である。各グループとも一定の大口与信リスクを抱えていることや、海外の景気減速・後退の影響を受けるリスクにはある程度の注意が必要だが、今のところ多額の費用が発生する兆候はみられない。市場リスクについても経営体力に見合ったレベルで管理されている。この2年ほどは、海外金利の急上昇を受け外国債券を中心に損失が膨らんだものの、期間損益や自己資本などとの対比で十分に吸収可能な範囲に収まっている。

- (6) 自己資本は各種リスクに対するバッファーとして十分な厚みを有している。JCR が重視している調整後 Tier1 比率 (Tier1 資本からその他の包括利益累計額などを控除) について、各グループとも AA レンジ相応の水準を確保している。リスク・リターン・資本のバランスを重視するリスクアペタイト・フレームワーク (RAF) の下、健全性を重視しつつ株主還元や成長投資などの資本活用を進めている。資金流動性についても特に問題はない。外貨流動性の管理はメガバンクグループに共通する課題ではあるが、長期運用のファンディングを短期の市場調達に依存するような不安定な調達構造にはなっていない。

(担当) 宮尾 知浩・古賀 一平

## 【参考】

### 発行体：株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ

長期発行体格付：AA 見通し：安定的

### 発行体：株式会社三菱 UFJ 銀行

長期発行体格付：AA 見通し：安定的

### 発行体：三菱 UFJ 信託銀行株式会社

長期発行体格付：AA 見通し：安定的

### 発行体：株式会社みずほフィナンシャルグループ

長期発行体格付：AA 見通し：安定的

### 発行体：株式会社みずほ銀行

長期発行体格付：AA 見通し：安定的

### 発行体：みずほ信託銀行株式会社

長期発行体格付：AA 見通し：安定的

### 発行体：株式会社三井住友フィナンシャルグループ

長期発行体格付：AA 見通し：安定的

### 発行体：株式会社三井住友銀行

長期発行体格付：AA 見通し：安定的

## ■留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であると問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であると問わず、一切責任を負いません。また、JCR の格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR の格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCR の格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR の格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

## ■NRSRO 登録状況

JCR は、米国証券取引委員会の定める NRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の 5 つの信用格付クラスのうち、以下の 4 クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。

## ■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL : 03-3544-7013 FAX : 03-3544-7026

**株式会社 日本格付研究所**

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官 (格付) 第 1 号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル